

朝霞地区在宅緩和ケア推進ネットワーク規程 Ver. 2

2026 年 4 月改訂／在宅緩和ケアワーキンググループ承認

1. 目 的

朝霞地区内で緩和ケアを必要とする住民のニーズのために「標準的で質の担保された在宅緩和ケア」を提供する医療機関や事業所が増加すること。

2. 概 要

1) 本ネットワークが対象とする患者・家族像

生命を脅かすすべての疾患の患者およびその家族とする。ただし、緩和ケアを理解し推進するうえで、現段階ではがんを中心に取り組む。

当医療圏の市民は「埼玉都民」とも言える性格を有し、がん患者の多くは都内の大規模な医療機関で（一部は県下のがん拠点病院やがん指定病院で）抗がん治療を受けている。

がん患者の大多数はがん治療中とがん治療適応外となつて後＝がん治療後とで医療へのニーズが大きく異なり、さらにがん在宅緩和ケアを提供すべき患者・家族は、自ずと生命予後月～週単位以内の終末期症例となる。

2) 参加資格

朝霞地区 4 市で医療、介護、または患者支援等に従事する医師・看護師・薬剤師・リハビリテーション技師・管理栄養士・介護支援専門員・ソーシャルワーカー・患者支援団体の構成員 等。

- ① 朝霞地区外からの参加希望については、諾否をワーキンググループで検討する
- ② 老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅・ホスピス型住宅・ホームホスピスにおいて従事する上記職種の参加希望は妨げないが、所属施設を大項目 4. に定める形で認定することは、現時点では行わない。

3. 活動内容

1) 本会議の企画・運営を行うワーキンググループメンバー（大項目 5.）が、緩和ケアについて系統的な学習・実践の機会を設ける。

① イーラーニング：全体向け・医療職向け・介護職向けの 3 領域について、動画と確認テスト

ネットワークメンバーは、全体向けおよび職種別の 2 領域について履修する

コンテンツは、ワーキンググループが 2 年度ごとに見直しと改訂を行う

② 勉強会（症例検討会）

知識や技術の向上および均てん化につながる内容とする

例) 病診連携の症例／人工呼吸器を要した神経難病の例／小児の在宅看取り例／症状緩和に難渋した例／遺族や患者団体が発言するカンファレンス など

- # 好事例も問題症例も対象として取り上げる
- # 2～3 月ごとに開催し、症例検討であれば 1～2 症例を取り扱う
- # 勉強会の担当当番については、ワーキンググループメンバーの持ち回りとする。但し発表者はワーキンググループメンバーでなくてもよい
- # ウェブ開催を基本とするが、形式は変更可能とする

③医療機関・事業所は以下のマニュアルを日常的に活用する

- # 朝霞地区在宅緩和ケアクイックリファレンス

本ネットワークの議長が作成しワーキンググループが承認したものを、医療介護者向け SNS である Medical Care Station の本ネットワークグループ内で公開・閲覧可能とする

- # 日本在宅医療連合学会 HP 内「がん疾患の在宅医療人材育成講座」
<https://www.jahcm.org/project.html> の各種教材

2) 市民向け冊子「朝霞地区 がんと向き合う暮らしのガイド-在宅療養生活のヒント集-」の編集・改訂・発行を行う。

- # 紙面・ウェブ双方で閲覧・配布可能にする
- # 在宅での終末期療養や看取りに必要な情報を網羅する
- # 2 年度に 1 回改訂作業を行う

3) 本ネットワークの運営方針および成果物については、朝霞地区在宅医療・介護推進会議および同医師会の承認を経て社会的根拠を得る。

4) 本活動における成果の評価について：2025 年度末の第一次評価を初めとし、およそ 2 年度に 1 回ずつ評価作業を行う。

評価のための指標は、できるだけ信頼性妥当性の評価が行われた既存の尺度をもって行う。

4. 「標準的で質の担保された在宅緩和ケア」を追求・実践する医療機関や事業所に求められる要件および評価方法

1) ネットワークが定める要件を満たすメンバーが所属する医療機関および事業所は、「朝霞地区 がんと向き合う暮らしのガイド-在宅療養生活のヒント集-」に推奨マークつきで掲載される。

2) 「推奨マーク付き医療機関・事業所」の要件

以下①②の両方を満たすネットワークメンバーが所属していることとする。

- ① イーラーニングの受講歴：該当する 2 領域のコンテンツを両方とも受講している
 - ② 勉強会（事例検討会）への参加実績：アーカイブ視聴をふくめすべて参加している
- 配布用の製本されたガイドブックとは別に、ウェブサイト上から閲覧・ダウンロード可

能なデータファイル版のガイドブックにおいては、事務局が 6 か月に 1 度「推奨マーク付き医療機関・事業所」の要件について見直しを行い、データを更新する。

5. 本会議の企画・運営を行うワーキンググループ（2026 年 5 月 1 日現在）

- ・ワーキンググループメンバーは自薦他薦により柔軟に追加増員できる。ただしワーキンググループの合議を必須とする。
- ・ワーキンググループメンバーは、できるだけ医師会や訪問看護ステーション・調剤薬局・居宅などが開催する既存の会合へ参加し、同職種への発信と懇親に努める。

令和 8 年度「在宅緩和ケア推進ワーキンググループ」メンバー一覧

	氏 名	職 種	所属機関
1	金井 良晃 (主任企画者・議長)	医 師	TMG あさか医療センター副院長・緩和ケアセンター長
2	米田 武史 (副議長)	医 師	医療法人循和会理事長・朝霞中央クリニック院長
3	大谷地 宏和	薬剤師	(株) コスモ コスモファーマシー 係長
4	石田 理香	薬剤師	かくの木薬局 主任薬剤師
5	星野 純貴	薬剤師	アカネ薬局 1 号店
6	上島 都	看護師	新座志木中央総合病院 入退院支援室・病床管理課長
7	中村 恵	看護師	TMG あさか訪問看護ステーション 管理者
8	鈴木 千恵子	看護師	さくら訪問看護ステーション 管理者
9	北村 啓太	作業療法士	TMG あさか医療センター
10	稲垣 一久	社会福祉士 主任介護支援専門員	新座市西部高齢者相談センター センター長
11	本多 真人	介護支援専門員	居宅介護支援事業所山吹・にいざケアネットワーク会長
12	山口 はるみ	管理栄養士 主任介護支援専門員	NPO 法人ぼけっとステーション 代表理事
事務局	木下 朋雄 (スーパーバイザー)	医 師	和光ホームケアクリニック 院長 朝霞地区医師会地域包括ケア支援室 副室長
	菅田 恵子	コーディネーター	朝霞地区医師会地域包括ケア支援室